GANKEN
がん研ボランティア

お裁縫活動のご紹介３



（胆汁ドレナージバッグカバー）



（胆汁ドレナージバッグカバーの使い方イメージ）

今回ご紹介するのはお裁縫の活動、第 3 弾！ボランティア活動の中で現在最もニーズが高くなっている活動がお裁縫です。職員や関係者以外は立ち入ることができない場所にあるボランティア室の中で行われている活動ですので、患者さんやご家族にはなかなか見えず、またこの活動の知らないと職員も多いため、こちらのページでも少しずつご紹介して参ります。
お裁縫の活動では手縫いやミシンを使って様々な縫製作業をボランティアの方が担っていますが、針が混入しないように、待ち針は一切使用せずに、仮止めクリップを活用し、仕上げた後にはしっかり検針器で布地の上をなぞって折れ針や金属片がないかチェックしています。患者さんのお痛みが少しでも軽くなるように、そして安心してご利用いただけるように注意しながら作製しています。

【胆汁ドレナージバッグカバー】
胆汁ドレナージバッグは、胆管がんや胆石症などで胆道が詰まり、黄疸や胆管炎を起こした際に、体外へ胆汁を排出して溜めておくための医療用排液の袋のことです。尿バックカバー同様、茶褐色の排液が丸見えになっていることは、医療者にとっては排液状態を確認するのに便利ですが、患者さんにとっては非常に恥ずかしいものです。患者さんのお気持ちに配慮できるようバッグを覆うように作製したカバーで、こちらは病棟の看護師長からの依頼で作製し始めました。病棟スタッフも使いやすいようカバーの中は確認しやすい構造で、病棟名も記入できるようにかにこちゃんのラベルシール縫い付けてあります。





（作製担当のボランティアわかばのメンバー）



（病棟名を記入スペース）